

平成29年9月21日

新潟県立大学の新学部設置等について（骨子案）

新潟県立大学
UNIVERSITY OF NIIGATA PREFECTURE

I 新学部設置の目的

県立大学の使命は、県民に対する高等教育の機会の提供と地域づくりを担う人材を育成することであり、この使命を果たしていくためには、地域のニーズに応じ、県民から選ばれる大学であり続けるための不断の改革が必要である。本学は、短期大学から4年制大学に移行して10年を経過する時期に向かって、これまで大学改革の一環として、教育体制の整備・充実について検討を進めてきた。

検討を進めるに当たり、本学への教育ニーズ調査を実施したところ、「実践的な経済学・データ分析の教育」や「実践的語学教育」のニーズが高い状況にあった。また、新潟県は、日本海を挟んで東アジア（露中韓）と向き合っており、東アジアとのネットワークの深化と拡大は、経済発展にとって不可欠な地理的条件にある。このため、東アジアの経済・産業・企業に強い人材の育成は、新潟県の発展にとって重要課題となっている。

こうしたことから、東アジアと新潟の経済を教育研究の主な領域とし、経済・産業・企業の仕組みを深く理解し、情報データ分析力と確かな語学力を有する人材を育成する、他大学にない新たな経済系の学部を設置する。

II 新学部の概要

1 学部名称・規模

国際経済学部国際経済学科【仮称】（定員90名程度）
※国際経済コースと地域経済創生コースの2コース制を予定

2 育成する人材像

- 経済・産業・企業の仕組みを理解し、情報分析力と、確かな語学力（英語＋露中韓言語）を備えた複合的実践力を有する人材
- 新潟の地理的な特性を生かした、東アジアの経済・産業・企業に強いプロフェッショナル

3 教育内容と特徴

- 経済・産業の仕組みを理解するための教育
国際経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済論、東アジア経済論、国際貿易論、金融論、財政学、産業経済学、財務諸表分析等

○ 情報・データを分析するための教育

統計学、経済統計、計量経済学、産業連関分析、情報処理、プログラミング、ビッグデータ分析等

○ 英語＋露中韓言語を実践的に駆使するための教育

1、2年次における集中的語学教育プログラム、3、4年次における海外演習プログラム（海外実地研修、海外インターンシップ等）

○ 実践力を高めるための教育

学外の企業、政府機関、自治体等に属する実務家の協力による実践科目、地域企業等と連携したプロジェクト実習（インターンシップ等）

4 設置場所・施設

- 新潟市東区海老ヶ瀬（現新潟県立大学所在地）
- 施設は、老朽化した一部校舎（3号館等）の建て替えを予定

5 設置時期（目標）

平成32年4月の設置を目指す。

6 その他

- 新学部設置に伴い、国際地域学部の教育内容を見直し、国際・社会・文化・言語系の教育に集中・強化する。（4コース制を3コース制へ変更予定。）
- 人間生活学部子ども学科の志願倍率・就職率が高いこと、慢性的な保育士不足の状況であること等を踏まえ、定員を10名程度増やす。

【参考】新学部設置後の学部・学科構成

現行（定員260名）	改革後（定員360名程度）
●国際地域学部国際地域学科 （定員180名）	●国際地域学部国際地域学科 （定員180名）
国際社会コース 比較文化コース 東アジアコース 地域環境コース	国際社会コース 比較文化コース 東アジアコース （コース名の一部変更を予定）
	●国際経済学部国際経済学科【仮称】 （定員90名程度）
	国際経済コース【仮称】 地域経済創生コース【仮称】
●人間生活学部（定員80名）	●人間生活学部（定員90名程度）
子ども学科（定員40名）	子ども学科（定員50名程度）
健康栄養学科（定員40名）	健康栄養学科（定員40名程度）